

マスダナガコさん

(辻の城団地)

## 柔らかなステンドグラスの光

優しい気持ちになれる  
ステンドグラス

ステンドグラス作家のマスダナガコさんは、辻の城にある小さな工房で、住宅に彩りを添える照明から、荘厳な空間を生み出す教会のステンドグラスまで、大小さまざまなガラス制作を営んでいます。

「ステンドグラスは、光の差し方でまるで違った表情を見せてくれます。光と共に移ろい、見る人に安らぎを与えてくれるんです」

ステンドグラスとの出会いは22歳、友人が通っていたステンドグラス教室の作品展でした。原色で派手なイメージを覆す、乳白色の穏やかな光を照らす作品を見て、「探していたものはこれかもしれない」と感銘を受けました。

自らもその教室に通い始め、働きながらガラス制作の修業を重ね、26歳に公募展で初入選、31歳には個展を開くまでに。38歳になると、京都で1カ月間、ヨーロッパで生まれたステンドグラス古典技法を

学び、身に付けた技術を基に熊本で本格的に作家としての受注をスタートしました。

## 優しいは巡る

熊本地震の際、工房も大きな被害を受けました。再開のめども立たず、クライアントに断りの連絡をしたところ、「どれだけかかっても構わない、あなたの作品を待っています」との返事が。「その言葉に心から頑張ろうと思えました」と振り返ります。

令和4年10月には、天草市河浦町にある世界文化遺産・崎津集落「うまかもん通り」の看板を制作。「380を超えるパーツを使い、大変苦労しましたが、とても喜んでもらい、作家冥利に尽きました」目標は、いつまでも現役で作品を作り続けること、とマスダさん。

「空間に調和した、いつまでも眺めていられるような、そんなステンドグラスを届けたいですね」

マスダさんのインスタグラムをチェック!



MASUDANAGAKO

下段写真左から／優しい光が辺りを照らすランプ／ガラスカッターで切り出す作業。繊細で集中力がある瞬間／うまかもん通りの看板(本人提供)

